

キヤノン株式会社

2025 年 第 3 四半期 決算説明会【QA まとめ】

- Q1. 第 3 四半期の営業利益について、計画に対してどの程度乖離があったのか。**
- A1.** プリンティングやメディカル、インダストリアルにおいて顧客の投資先送りが想定以上であり、営業利益は計画と比べて 100 億円弱下振れた。
- Q2. プリンティング、メディカル、半導体露光装置における投資の先送りについて、いつ頃まで続くか見ているか教えてほしい。**
- A2.** プリンティングは追加関税の内容が確定し先行きの不透明感がなくなるにつれ第 4 四半期から徐々に回復してくると考えている。メディカルは米国、新興国の成長は期待できるものの、日本国内は病院経営の悪化が続き回復まで時間がかかる。半導体露光装置は、生成 AI 向けの需要は力強いものの、メモリ向けやパワー向けの回復は来年後半になると考えている。
- Q3. 第 3 四半期営業利益の対前年分析で数量増減/プロダクトミックスが、増収にも関わらずマイナスとなっているのはなぜか。また第 4 四半期以降はどうなるのか。**
- A3.** レーザープリンターの売上が落ちたことに加え、カメラについては「EOS R5 Mark II」を投入した昨年に比べてエントリー機の割合が増えていることが主な要因となっている。第 4 四半期以降、レーザープリンターは在庫調整が終われば回復してくると期待しており、カメラはエントリー機の成長が継続するもののフルサイズ機も拡販して伸ばしていく。
- Q4. 構造改革の進捗と今後の見通しを教えてほしい。**
- A4.** 販売構造改革については、昨年から米国を中心に取り組んできており今年 200 億円以上の効果が出ている。今年は欧州でさらなる改革を進めており、第 4 四半期から実行し来年も継続していく。生産構造改革は下期から開始し、第 4 四半期から加速して来年以降も継続する予定である。来年は費用が減り、利益改善効果も出てくる見込みである。メディカルの事業革新活動は経費削減が順調に進んでおり、今後も早期の利益率 10%達成を目指し改革を実行していく。
- Q5. 3Q の関税影響 79 億円の内訳を教えてほしい。**
- A5.** 関税によるコストアップが約 140 億円、それに対する値上げの影響が約 150 億円、残りが数量増減となっている。

キヤノン株式会社

2025 年 第 3 四半期 決算説明会【QA まとめ】

Q6. 米国関税の金額影響について内容を教えてほしい。

A6. 前回決算では、発表直前に確定したため織り込めなかった各国の上乗せ関税率の影響を今回織り込んでいる。年間の関税コスト増が約 500 億円に対し、約 8 割を値上げで相殺できると想定しており、値上げによる販売数量減も織り込み、合計では売上で 222 億円、利益で 330 億円のマイナス影響を想定している。

Q7. 関税コストアップに対する価格戦略について変化があれば教えてほしい。

A7. 基本的には前回から方針は変わらず値上げできるタイミングで価格転嫁していく。4 月に適用された関税率分に対しては 6 月から 6～8%程度の値上げを実施しており、8 月に上乗せされた関税率分に対しては、競合との関係や製品競争力も踏まえて 10 月以降 3～5%程度の値上げを順次行っていく。値上げによって販売数量にどの程度の影響が出るか見極めた上で、来年の方針を決めていく。

Q8. プリンティングのハードについて、年間見通しの落ち込みが大きいのはなぜか。また、今後の回復見通しについても教えてほしい。

A8. 第 3 四半期は、顧客の投資先送りによりプリンティングのハードが大きく落ち込んだ。市場全体は縮小傾向ではあるものの、関税影響による投資の先送りにより極端に落ち込んでいると捉えており、第 4 四半期以降は回復してくると考えている。加えて、オフィス複合機の新シリーズ「imageFORCE」の受注が順調に積み上がっており、第 4 四半期で売上計上される予定である。

Q9. レーザープリンターの下期売上が落ち込んでいるが来年は回復してくるのか。

A9. レーザープリンターは上期に追加関税の影響を避けるための前倒し購入があり、その反動で下期の売上が落ち込んでいる。顧客の在庫が適正化された後は、通常の売上水準に回復してくると期待している。

Q10. メディカルは年間見通しを下方修正したが、さらなる減損の可能性はあるか。

A10. メディカルは、顧客の投資先送りが見られる欧州と日本がいつ回復するかは見極めが必要だが、米国や新興国は順調に受注を積み上げられており、今後も成長が続くと考えている。加えて、事業革新活動による収益性改善は順調に進んでおり、現時点でのれん減損の懸念はないと考えている。

キヤノン株式会社

2025 年 第 3 四半期 決算説明会【QA まとめ】

Q11. イメージングが第 4 四半期に高い成長を計画している背景を教えてください。

A11. レンズ交換式カメラについて、中国・アジアを中心に好調なエントリー機の成長が続くことに加え、フルサイズ機についても商戦期に販促をかけ売上を伸ばす。加えて、バックオーダーが積み上がっているコンパクトは増産体制が整ったことで売上増大につなげる計画となっている。

Q12. 半導体露光装置の年間販売台数見通しを引き下げた理由は何か。また、来年の見通しはどのように見ているのか。

A12. EV の需要減退によるパワー半導体の落ち込みが下方修正の主な要因であるが、後工程向けを中心に前年から大きく台数が増える状況に変わりはない。来年は AI 関連の需要が旺盛である一方、メモリ向けの回復には時間がかかると見ている。

Q13. キヤノンが圧倒的に強い後工程向け露光装置について、競合他社の参入発表が相次いでいるが、競争環境に変化はあるのか。

A13. 注視していく必要はあるものの、現段階では当社の装置が量産段階における解像力・生産性・稼働安定性において優位性があると認識している。

Q14. 財務キャッシュフローの第 4 四半期見通しが大きくマイナスとなっているのは、自社株買いを行う予定なのか。

A14. 第 4 四半期に借入金の返済を計画している。自社株買いはすでに 3,000 億円実施し、総還元性向は 136%まで達しており、現時点で追加の計画はない。

Q15. 次期 5 カ年計画の発表タイミングについて教えてください。

A15. 計画内容について役員による議論が進んできており、具体的な時期は未定であるものの、なるべく早い段階でトップより発表したいと考えている。